

研 究 分 野	資源生態	部名	資源管理部
研 究 課 題 名	「青森ヤリイカ」ブランド化推進事業		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H.17 ～ H.18		
担 当	伊藤 欣吾・廣田 将仁（増養殖研究所）		
協 力 ・ 分 担 関 係	北海道大学		

〈目的〉

全国一の生産量を誇る県産ヤリイカのブランド力及び産地価格向上を図るため、首都圏をターゲットにした提案営業型の流通チャンネルを導入し、ホテル・レストラン等へ供給する流通業者が需要に応じた量を計画的・安定的に仕入れることができるよう、漁況予測やその情報などを効率的・効果的に伝達する手法や、安定供給を図るための資源管理手法を開発する。

〈試験研究方法〉

調査は下表のとおりである。

調査項目	内 容	H17	H18	期 間
1. 漁況予測手法・資源管理手法開発（水産総合研究センター担当）				
漁獲統計調査	漁況予測と資源解析を行うため、漁獲量を詳細に調べる。	○	○	通年
生物測定調査	漁況予測と資源解析を行うため、八戸と大戸瀬漁協で各月、各銘柄100尾を生物測定する。	○	○	11～5月
海況モニタリング調査	漁場配分を予測するため、産卵場水温、初期生活期水温、流量を調べる。	○	○	通年
試験船トロール調査	資源量を予測するため、八戸沖の未成熟個体の分布量を調べる。	○	○	10月
DNA分析	本県と同一資源の分布域を明らかにするため、各海域100尾をDNA分析し集団解析を行う。	○	○	通年
漁況予測手法の開発	予測手法を開発し、漁場別の漁獲量、魚体サイズを予測する。	○	○	11月
資源管理手法の開発	資源管理方策を検討し、資源管理後の漁獲シミュレーションを行う。	○	○	通年
2. 産地情報発信手法開発（総合販売戦略課→増養殖研究所担当）				
市場流通調査	首都圏の流通実態を調べる。	○	○	2回
生産地流通調査	県内の生産地側からの流通実態を調べる。	○	○	2回
生産状況調査	県内の生産量、規格、鮮度保持等の状況を調べる。	○	○	2回
マーケティング戦略調整	提案営業型の流通チャンネルにおける、仲卸業者と生産者側との調整を行う。	○	○	3回

〈結果の概要・要約〉

＜漁況予測手法の開発＞

予測の対象は冬季来遊群とした。海域は渡島支庁、青森県および岩手県、期間は8月～翌年2月。平成18年11月13日に関係漁業協同組合等へヤリイカ分布状況の情報提供を行った。その情報の内容は、10月中旬に実施した八戸沖のトロール調査の結果、ヤリイカ分布密度は前年よりも少なく、体サイズは過去5年間の平均的な大きさ、重回帰モデルによる漁獲量予測は前年を下回った。平成18年12月13日に関係漁業協同組合等へヤリイカ冬季来遊群の漁況予測を発表した。その予測内容は、漁期序盤（8～11月）の漁獲量、トロール調査によるヤリイカ分布密度をもとに、今期漁獲量（8月～翌年2月）は前年並の約1,500トン、また、本県日本海海域における今期漁獲量（8月～翌年2月）は前年の1.6倍の約560トンと予測した。予測の結果は、概算ではあるが、全体の漁獲量はおおむね的中したものの、日本海海域の漁獲量は予測を下回った。なお、春季来遊群については、未成体期の分布の中心が明らかになっていないため、漁況予測の手法が確立できなかった。

＜資源管理手法の開発＞

本県ヤリイカの分布域を明らかにするため、遺伝学的手法、漁況学的手法および標識放流法により資源構造を検討した結果、本県ヤリイカと同一の資源は、石川県以北の日本海側と岩手県以北の

太平洋側に分布していると推測された。また、生物測定調査の結果、11～12月に漁獲されるヤリイカは未成熟個体が主体であり、単価も安いことから、成長乱獲であると判断された。11～12月の小型ヤリイカを禁漁にした場合、1～2月の漁獲率が0.2以上であれば、産卵個体数と漁獲金額が増加する試算結果が得られた。

＜産地情報発信手法の開発＞

水産物 MD 企画企業と意見交換し、ヤリイカ漁況予測が MD 企画に有効であり、その予測は盛漁期の2ヶ月前から活用することが有効であることがわかった。ヤリイカの流通実態を調査した結果、日本海地区から首都圏出荷は他県に比較して時間がかかっていることや氷焼けなどにより、鮮度にかかる評価が低くなっていること、また量販店向けの出荷方法では産地価格の向上が困難であることがわかった。首都圏市場と札幌市場に鮮度保持を施した梱包方法で試験流通を行った結果、品質の評価は高かった。鮮度保持を施したヤリイカを、低コストの物流体形で限定した高級料理店に販売する MD 企画により、産地価格がおよそ1～3割向上する試験結果が得られた。

＜主要成果の具体的なデータ＞

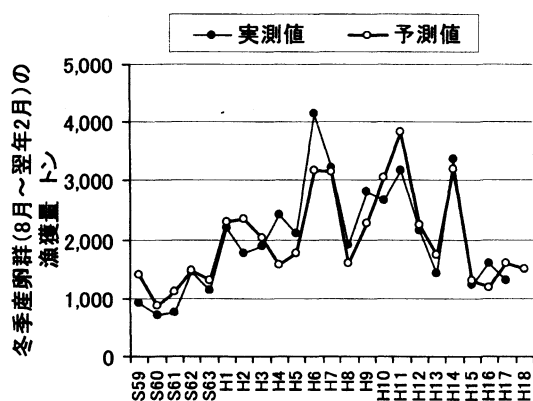


図1 冬季産卵群の漁獲量予測の結果

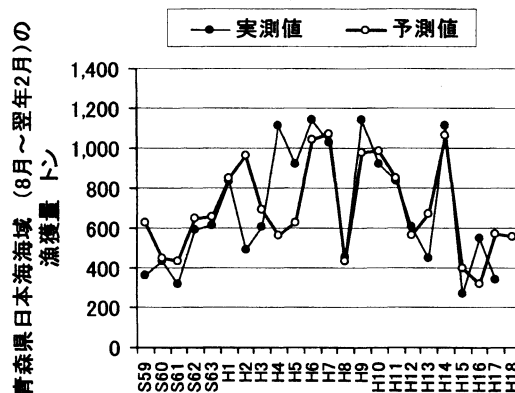


図2 冬季産卵群のうち青森県日本海の予測

＜今後の問題点＞

生産者グループと MD 企画企業との連携を図り、生産ラインを構築する必要がある。

＜次年度の具体的な計画＞

＜結果の発表・活用状況等＞

日本海地区の漁業協同組合にヤリイカの分布調査結果、漁況予測を発表。

漁業士会日本海支部・日本海地区青年部でヤリイカ漁況予測と生態について口頭発表。

平成 18 年度イカ類資源研究会議でヤリイカの集団構造について口頭発表。

平成 18 年度日本水産学会東北支部・北海道支部合同大会でヤリイカについて口頭発表。

平成 19 年 3 月に「青森ヤリイカ」ブランド化推進事業の成果報告会を開催した。